

第二話 岩倉使節団人物論の列伝からもれた随員たち

岩倉使節団が明治4年(1871)11月12日(陽暦:1871年12月23日)に横浜を外輪船・アメリカ号で出帆した時は、留学生を除く使節団員は46名でした。

他に、61名の留学生(43名)と大使・副使随従者(18名)が同行しましたので、合計は107名となります。

一方、当会のホームページ掲載の人物列伝は総人数164名で、構成は下記のとおりです。先発隊に加えて、後発隊や現地参加の使節団と海外で会った日本人・外国人と留守政府要人列伝が加えられております。

- 1) 使節団本隊(全権大使岩倉具視以下23名、含む米国参加畠山義成、由利公正、塩田三郎)
- 2) 使節団各省派遣理事官・随員(39名、含む後発隊左院5名と司法省8名、米国から現地参加の吉原重俊、新島襄)
- 3) 随行留学生(26名—上記61名の留学生・大使・副使随従者から抽出)
- 4) 使節団が海外で出会った日本人(24名)
- 5) 使節団回覧中に留守政府を担った主要人物(15名)
- 6) 使節団が回覧中に会った外国要人(36名)

翌年、1872年に出発の後発隊は下記のとおりです。

左院5名(高崎正風、安川繁成、西岡逾明、小室信夫、鈴木貫一)

司法省8名(河野敏鎌、鶴田皓、岸良兼養、井上毅、益田克徳、沼間守一、名村泰蔵、川路利良)

米国から現地参加した(吉原重俊、畠山義成、新島襄)

米国から参加(塩田三郎、由利公正、岩見鑑造)

人物列伝を執筆に当たっては、一人一人の墓銘碑(レクイエム)を書くつもりで、人物デッサンを心掛けましたが、明治維新時には、岩倉大使使節団に選ばれた有為な人材でも、150年経って、ほんのわずかな経歴しか残さない下記の5名の人物もおりました。

列伝では、なるべく全団員を網羅しようと努めたが、写真や資料が乏しいために割愛を余儀なくされた人々です。概略を記して、のちの発掘・研究を待ちたいと思います。

皆様の資料提供をお待ちいたします。

- 1・杉山一成（すぎやま かずなり）幕臣出身 出発時：29歳 没年不詳
大蔵理事官・田中光顕随員 役職：検査大属 帰国後報告の岩倉使節団理事行程に『川路寛堂、杉山一成報告理事功程』がある。大蔵省七等出仕とあり、「和蘭水利堤防取締之儀ニ付申牒」の報告がる。尚、明治8年—9年の間、内務省七等出仕。内務少書記。フィラデルフィア博覧会事務官の記録がある。

- 2・吉雄永昌（辰太郎）（よしお ながまさ）長崎出身 生没年不詳
役職・出発時年齢不詳 大蔵省理事官随員 長崎でオランダ通詞をしていたと思われる。使節団員に回覧中に給与を配る役をしていた。畠山義成に代って、農務省よりフィラデルフィア万博に派遣されたとの記録もある。林述斎から『鯨史稿』（大槻清準 1773 - 1850）を習った記録もある。

- 3・内村良蔵（うちむら りょうぞう）山形出身 生年不詳—1910
文部理事官田中不二麿随員として参加。米沢藩藩士の子弟で、内村公平も名乗る。平田東助、曾根俊虎と共に、慶応2年、慶応義塾に入学。吉田賢輔から英語を学ぶ。明治になり、開成学校に入学。岩倉使節団に、文部九等出仕で参加する。東京外国語学校校長（第6代：1877年1月—1885年9月21日）を勤め、文部権大書記官。

- 4・長野文炳（ながの ふみあき）大阪出身 1853—没年不詳 出発時：18歳
佐々木高行司法理事官随員で参加・司法権少判事。明治2年刑法官で、新律編集局が設けられると、水本保太郎（成美）を中心に、鶴田皓、長野文炳、村田虎之助（保）等により、日本最初の統一法典『新律綱領』が編纂された。使節団の中で、最も若い団員か。

- 5・長岡義之（ながおか よしゆき）山口出身 生没年不詳
大蔵理事官田中光顕随員で後発隊とし、租税寮七等出仕で参加。どんな経路で使節団を追ったかも不明。独逸協会会員名簿には、大蔵省外国品調度掛長。権大書記官検査書記官。大阪税関長兼神戸税関長。会計検査院二等検査官を歴任。明治14年：正六位となり、法学博士とある。大隈重信宛書簡（明治9年、明治12年）を残す。妻は分部光賓（第8代近江大溝藩主）の娘で、子息の長岡春一（1877 - 1949）は、オランダ大使、ドイツ大使、フランス大使を歴任の外交官で、常設国際諸法裁判所判事の法学博士である。

この一文を読まれた皆様からの、関連資料提供を期待いたします。